

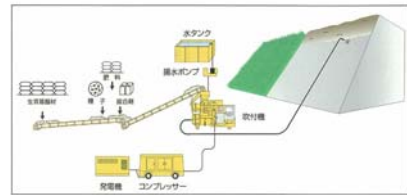
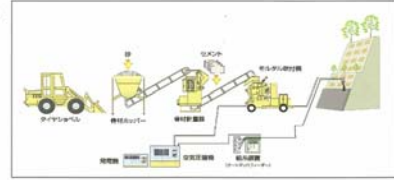
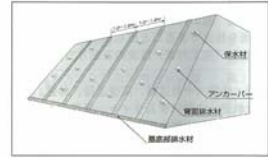
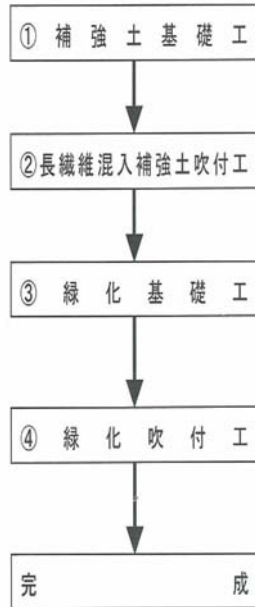
技術概要書（様式）

※別紙2

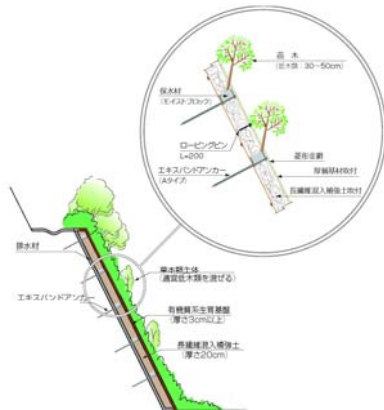
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当分類に○を付記）											
技術名称	ロービングウォール工法	担当部署	事務局									
NETIS登録番号	旧QS-000021-VE, KT-180143-A	担当者	上杉 吉史									
社名等	長繊維緑化協会 九州支部	電話番号	092-651-4331									
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>近年、建設工事などによる地形の改変によって出現する斜面・法面に対し、地球環境の保全や周辺景観との調和など、環境負荷低減に対する要求が高まっており、その対策として環境や景観に配慮した緑化工が求められている。</p> <p>このような社会の要求に答えるべく、土構造物の造成と緑化工を併用し、地形の改変を最小限に抑える。また、長繊維を基盤に混入することにより補強土としての効果を発揮し、造成した補強土表面に緑化工を施工することにより、CO2削減など環境保全対策にも貢献する『ロービングウォール工法』を開発した。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>ロービングウォール工法は、砂とセメントの混合物に、吹付ノズル先端にて長繊維をエアの圧力により強制的に混入させたものを、斜面・法面に吹付造成する補強土構造物とその補強土表面を、植生基材吹付工などで緑化する工法の一体施工方法の総称である。</p> <p>当工法は、その造成断面形状および使用資材の組合せから、法面保護タイプ、擁壁タイプ、法面安定タイプの3種類に分類される。</p> <p>3. 技術の効果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長繊維混入補強土は斜面安定上、十分な強度を有している事。 2. 表面緑化工による植物の生育を健全に保つ事ができる事。 3. 長繊維混入補強土は、長繊維を長距離搬送でき、優れた施工性を有している事。 <p>以上の3点について、(財)砂防・地すべり技術センターにより、建設技術審査証明（第0303号）の認定を受け、全国的に採用も多く、砂防分野における『緑の斜面づくり』を積極的に推進している。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 道路・ダム・急傾斜地・ゴルフ場等の斜面、法面およびその崩壊跡地 2. 極強酸性地山の斜面・法面 3. EPS（発泡スチロール）軽量盛土の表面覆土 4. 既設モルタル・コンクリート吹付面 5. 既設法枠・アンカー受圧板の被覆 6. 既設擁壁（間知石積・ブロック積など）の被覆 <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>444 件</td> <td>（九州 88件、九州以外 356件）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>977 件</td> <td>（九州 210件、九州以外 767件）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>185 件</td> <td>（九州 47件、九州以外 138件）</td> </tr> </table>			国の機関	444 件	（九州 88件、九州以外 356件）	自治体	977 件	（九州 210件、九州以外 767件）	民間	185 件	（九州 47件、九州以外 138件）
国の機関	444 件	（九州 88件、九州以外 356件）										
自治体	977 件	（九州 210件、九州以外 767件）										
民間	185 件	（九州 47件、九州以外 138件）										

6. 写真・図・表

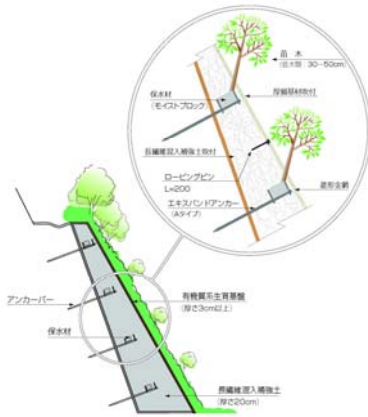
ローピングウォール工法 施工フロー



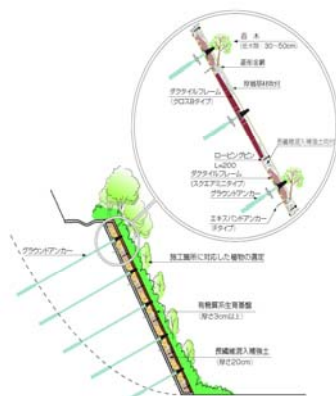
ローピングウォール工法 施工タイプ



法面保護タイプ



擁壁タイプ



法面安定タイプ



擁壁タイプ(崩壊部復旧タイプ)